

地域の人々が集まる定例会。「歯磨きを普及させたい」などのアイデアを出し合い、連携して実行に移す



カノア・ケブラーダの子どもたちは、かつてはほとんどが漁師になった。それなら読み書きは必要ないと、学校に行かなくなる子も多かった。しかし今は違う。ホテルなどの観光施設で働くという選択肢ができ、読み書きや計算

子どもたちの未来の選択肢を増やす

目まぐるしい環境の変化に最も頭を抱えたのは、小さな子どもを持つお母さんたち。テレビもスーパーもなかった時代の常識はもはや通じない。子どもたちの健やかな成長を願うが故に、将来への不安でいっぱいだったのだ。

リゾート開発で他の地域からの移住者が増え、貧富の差が拡大し、若者の売春や麻薬の売買が横行していた。「売春をした10代の女の子は、観光客が持っていたウォークマンがかっこよかったです。若者が都会の生活に憧れるのは無理もないですよ。近代化による負の影響が、若者たちに影を落としていた。

てくれたのは、貧しくても元気いっばいの子どもの笑顔。「これこそ本来の子どもの姿だと思いました。彼らのエネルギーに感動し、保育士としてこの保育園で働き始めることになった。そして2000年、さらに転機が訪れる。「日本のNGOが保育園を立ち上げるから手伝ってほしい」と声が掛かったのだ。その場所がカノア・ケブラーダだった。

最初は苦勞の連続だった。外ではかり遊んでいた子どもたちは、保育園での集団行動に抵抗があったからだ。そこで鈴木さんは、室内でも楽しめるお絵かきやゲームを導入。表現力や数の数え方を教え、みんなで一緒に過ごすうちに、次第にコミュニケーション力や協調性が身に付くようになった。今では約20人の子どもたちが通い、卒業後は多くが高校まで進学している。

そして現在、保育園の運営に加え、JICA草の根協力事業を通じて進めているのが「地域力」の向上だ。子どもたちの成長は、地域ぐるみで支えていかなければならない。しかしこれまで、看護師や栄養士、保健師など住民が意見交換する場がなかった。そこで光の子どもたちの会が中心となり、月に一回、定例会を開いて地域の結び付きを強めている。「住民にとって遠い存在だった専門家と話ができるようになり、教育や衛生など、地域の課題を共に改善していこうという動きが生まれています」と鈴木さんは話す。

こうした活動のキーパーソンが、同会の現地代表フラビアーニ・ホーシャさん。15歳でシングルマザーになり、

買収し、ホテルが建ち、国内外から多くの観光客が訪れるようになった。「電気もなく、電話も村に一個しかありません。そんな生活が一気に変わったのです」。そう振り返るのは、ここで10年以上、教育分野の支援を続ける鈴木真由

を学ぶなどして、日々変化し続ける社会に適応しなければならぬ。「保育園でその準備をし、小学校、中学校へと進むお手伝いがしたかった」と鈴木さん。現地の人々と共にNGO「光の子どもたちの会」を設立し、子どもの成長を見守り続けている。

最初が苦勞の連続だった。外ではかり遊んでいた子どもたちは、保育園での集団行動に抵抗があったからだ。そこで鈴木さんは、室内でも楽しめるお絵かきやゲームを導入。表現力や数の数え方を教え、みんなで一緒に過ごすうちに、次第にコミュニケーション力や協調性が身に付くようになった。今では約20人の子どもたちが通い、卒業後は多くが高校まで進学している。

そして現在、保育園の運営に加え、JICA草の根協力事業を通じて進めているのが「地域力」の向上だ。子どもたちの成長は、地域ぐるみで支えていかなければならない。しかしこれまで、看護師や栄養士、保健師など住民が意見交換する場がなかった。そこで光の子どもたちの会が中心となり、月に一回、定例会を開いて地域の結び付きを強めている。「住民にとって遠い存在だった専門家と話ができるようになり、教育や衛生など、地域の課題を共に改善していこうという動きが生まれています」と鈴木さんは話す。

こうした活動のキーパーソンが、同会の現地代表フラビアーニ・ホーシャさん。15歳でシングルマザーになり、

将来に希望を持ってない時期もあったが、同会で働くことで生きがいを取り戻し、大学にまで進んだ。「鈴木さんに声を掛けてもらわなかったら、私の人生は違うなっていか分らない」。地域のために生き生きと活動する彼女のように、誰もが自分を誇れる人生を送ってほしい。鈴木さんはカノア・ケブラーダの人々と共に走り続ける。子どもたちの輝く未来のために。

保育園に通う子どもたちと鈴木さん(後列左から4人目)。「子どもたちを取り巻く環境はどんどん変わっています。現地の人々と共にこの村の未来を支えていきたい」



保育園に通う子どもたちと鈴木さん(後列左から4人目)。「子どもたちを取り巻く環境はどんどん変わっています。現地の人々と共にこの村の未来を支えていきたい」

リゾート開発が進むエリアと、環境保全のために開発を禁止したエリアに分かれているカノア・ケブラーダ



保育園のお祭りにはみんなでおしゃべりして参加。保育園は楽しみながら社会に出る準備をする場所だ



国際協力の担い手たち

光の子どもたちの会 子どもたちにたくさんの夢を

大規模な観光開発で変化の渦に巻き込まれたブラジル北東部の小さな村、カノア・ケブラーダ。この地の子どもたちの健やかな成長を願い、活動を続けているのが光の子どもたちの会だ。



リゾート開発が進むエリアと、環境保全のために開発を禁止したエリアに分かれているカノア・ケブラーダ